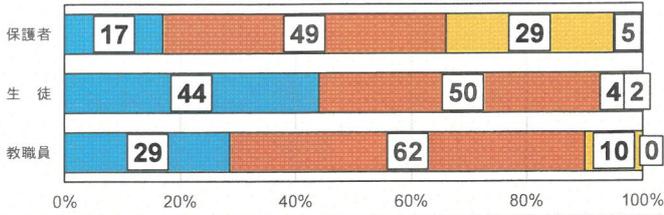


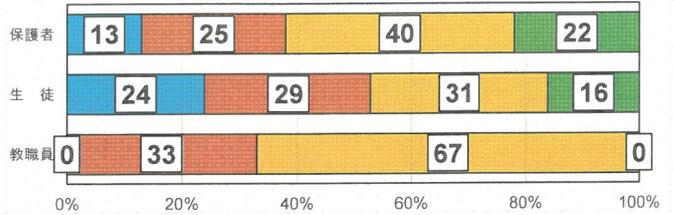
令和7年度 学校評価結果（後期）まとめ

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまり思わない ■ そう思わない

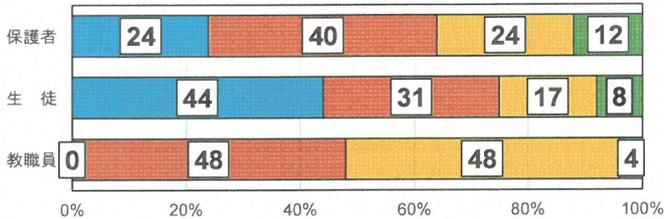
1 生徒は「ねらい・めあて」を意識して授業に取り組んでいる



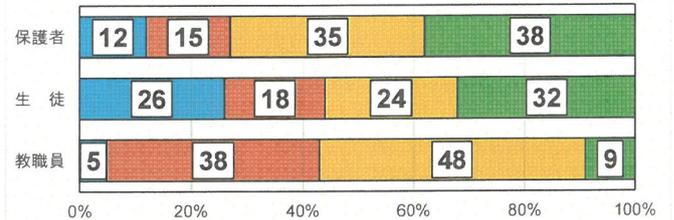
2 生徒は「家庭学習」が充実している



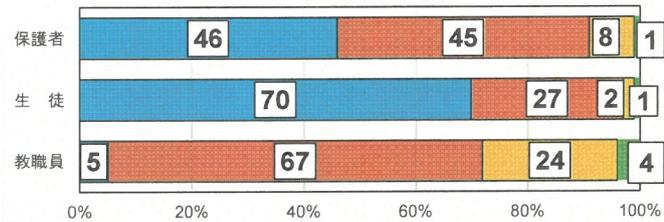
3 生徒は「授業の宿題や準備物などの忘れ物」がない



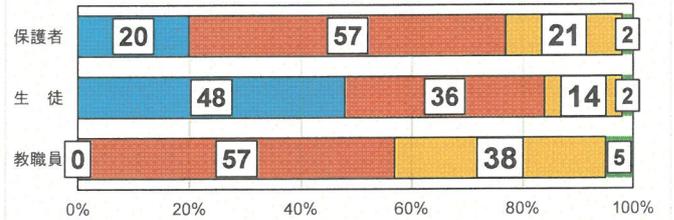
4 生徒は朝読書以外にも読書をしている



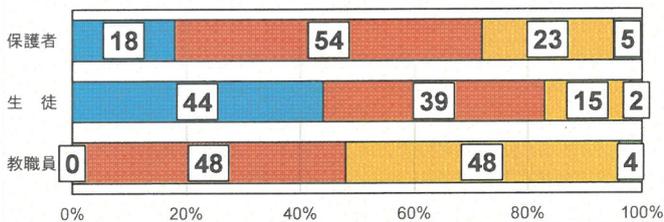
5 生徒は学校や社会のきまりを守っている



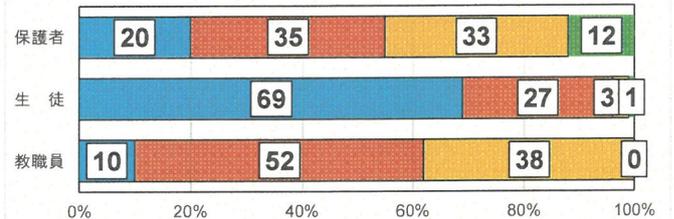
6 生徒はいつでも気持ちのよいあいさつができる



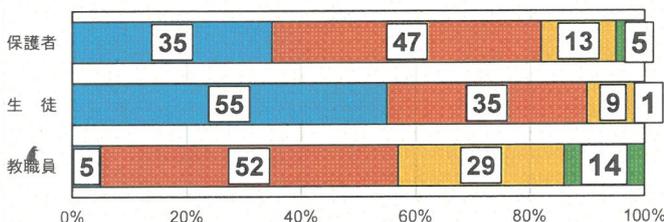
7 生徒は「はい」の返事がよくできている



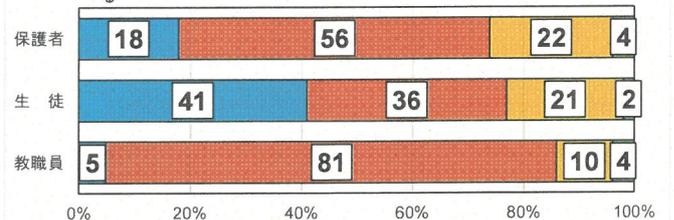
8 生徒は、はきものをそろえることができている



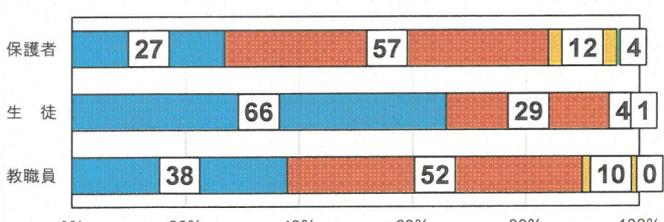
9 生徒は、当番や清掃がよくできている



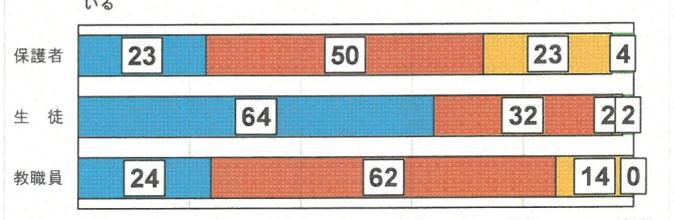
10 生徒は、自分の考えや意見を自分の言葉で伝えることができている



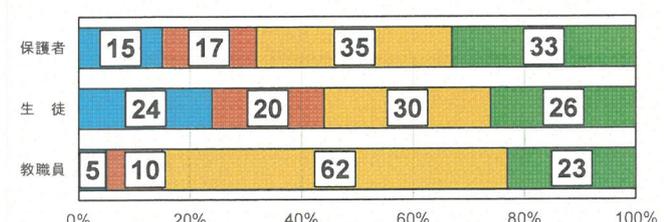
11 生徒は、今学期の活動や行事に満足感をもっている



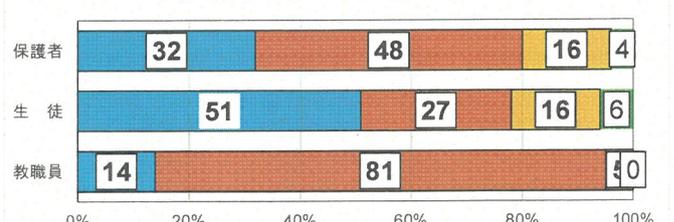
12 生徒は自分の身は自分で守る意識や防災に関する意識が高まっている



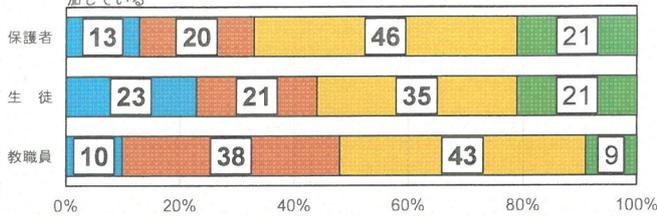
13 生徒は、平日のTV、ゲーム、パソコン、携帯等の使用が短い



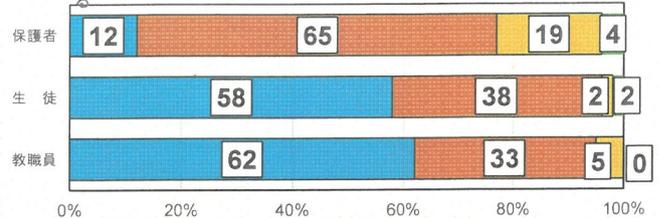
14 生徒は、家庭で学校のことを話題にして会話できている



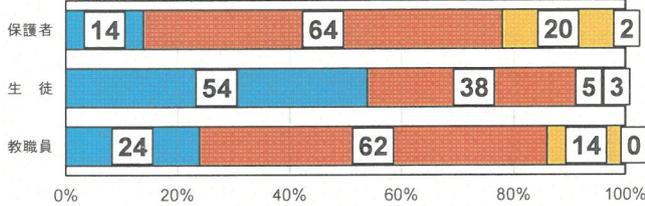
15 生徒は、ボランティア活動や地域等での自主的活動に積極的に参加している



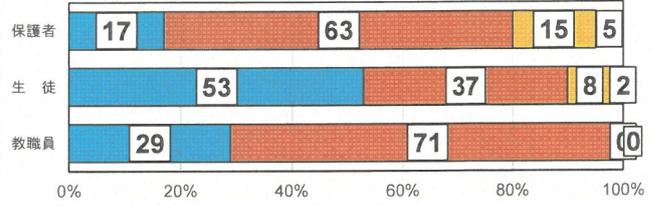
16 教師は、各授業のねらいを明確に提示して授業を行っている



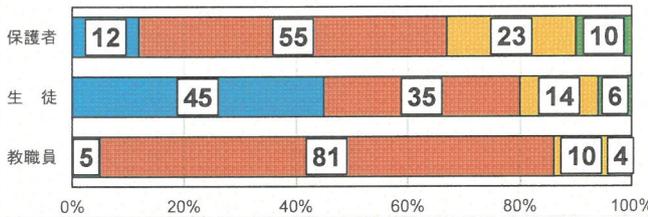
17 教師は、生徒主体の楽しく、分かりやすい授業を行っている



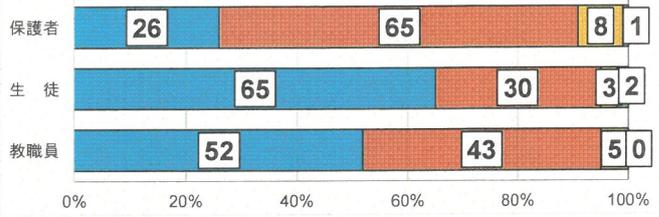
18 教師は、生徒一人一人を大切に、個々の特性に応じた指導に努めている



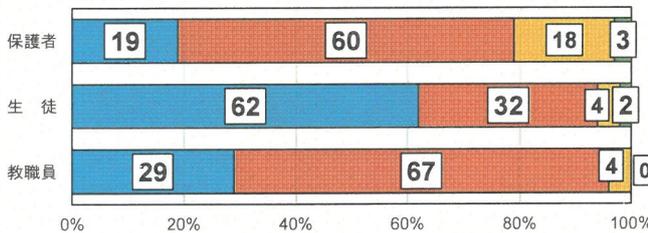
19 学校は、いじめがなく楽しい場所になっている



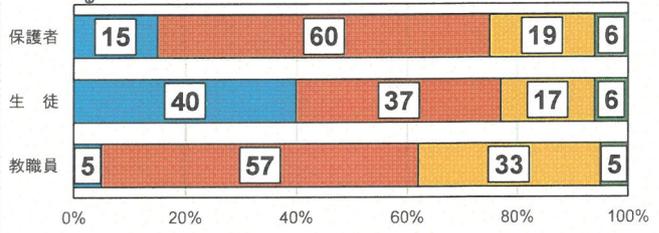
20 学校は生徒の思い出に残る学校行事を行っている



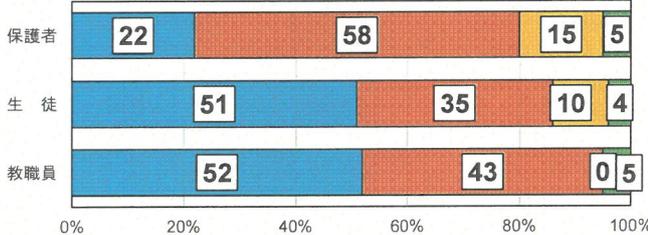
21 学校は、生徒一人一人の希望進路の実現に向けて適切な指導を行っている



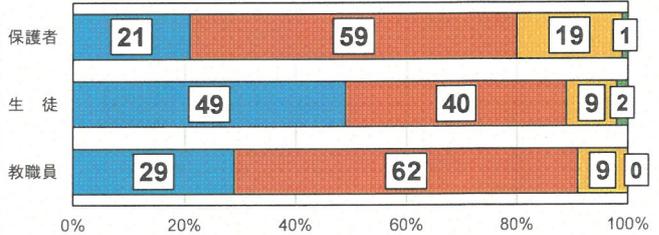
22 学校は、清潔で安心して生活できる施設・設備になっている



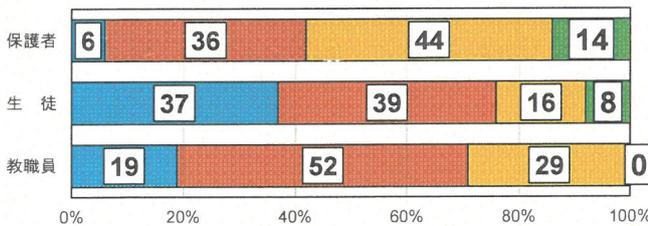
23 学校は、HPや通信等で保護者や地域に積極的に情報を提供している



24 学校は地域や地域の人から学ぶ学習を行っている



25 PTAは、学校行事によく参加している



## 令和7年度 学校評価結果（後期）考察

### 学習面（項目1～4）

「1 ねらい・めあてを意識して授業に取り組んでいる」は、前期に引き続き、生徒・教職員ともに肯定的な回答が90%を超えており、目的意識をもって授業に向かう姿勢が習慣化していることがうかがえます。一方で、「2 家庭学習が充実している」「4 朝読書以外にも読書をしている」など、家庭での学習に関する項目は、前期と同様に三者とも否定的回答が半数を超えていました。また、「3 宿題や準備物などの忘れ物がない」については、教職員の肯定的回答のみ50%を下回る結果でした。これらから、授業には前向きに臨んでいても、一定数の生徒は課題や準備が不十分で、学習活動に十分取り組めていない状況が見受けられます。家庭での学習習慣づくりは、学校と家庭が連携して取り組むことが不可欠です。宿題の量と質の適正化や、忘れ物ゼロの呼びかけなど、さまざまなアプローチを進めていますが、何よりも生徒自身の学習に対する意識改革が重要です。学習習慣の定着に向けて、家庭でも引き続きご協力をお願いいたします。

### 学校生活（項目5～12）

「11 活動や行事への満足感」は、後期も三者とも肯定率が80%を超え、生徒は体育祭や合唱コンクールなどの学校行事に充実感を得ていました。また、「10 自分の意見を伝えられる」は、保護者は70%台でしたが、生徒・教職員はいずれも80%後半を維持しています。令和5年度から継続している道徳科での取り組みが成果を上げ、北中学校の良さとして定着しつつあるといえます。一方、「5 きまりを守る」「7 よい返事」「8 はきものをそろえる」「9 当番や清掃への取組」などの基本的な生活習慣については、生徒・教職員・保護者の間で肯定的回答の割合に差が見られました。特に「きまりを守る」では、未熟さからルールを破り、相手や周囲を不快にさせる事例が複数報告されました。集団生活を営む上で、自他を尊重するためのきまりは欠かせません。相手を不快にさせる言動については、今後も毅然とした態度で指導し、教職員が率先して模範を示すことで、生徒の健全な成長を支えてまいります。

### 家庭・地域での生活（項目 13～15）

学校行事の多い2学期末の調査であったことも影響し、「14 家庭で学校のことを話す」は前期に続き、生徒・保護者ともに肯定的回答が80%を超えました。一方で課題となっているのは「13 スマートフォン使用について」です。使用時間や利用方法に制限を設けないことは、心身の健康に大きなリスクをもたらします。お子さまの健やかな成長を妨げるものとなっていないか、家庭でも継続的な確認をお願いいたします。

### 学校の姿勢など（項目 16～25）

「19 いじめがない」については、生徒の否定的回答がわずかに増加し20%に達しました。本校でもスマートフォン保有率が高く、SNSの普及に伴い、いじめが潜在化する傾向が見られます。今後も生徒一人ひとりに丁寧な目を配り、いじめや差別を見逃さず、早期発見に努め、生徒が安心して学べる学校づくりを進めてまいります。

「20 思い出に残る学校行事」は、前期に続き三者すべてで肯定的回答が90%を超えていました。今年度は初めての取組として、川之江小学校・川之江高校と合同で防災避難訓練を実施しました。消防署や地域防災組織の協力を得て、小学生・高校生とともに消火器操作や救急搬送などの防災体験を行い、災害時における避難や救助について理解を深めるとともに、将来地域防災を担う意識も育まれていました。

今後も、家庭・地域と一層連携し、より良い北中生の育成に努めてまいります。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。